

# 朝日新聞研究



酒井信彦



■ 5 ■

さかい・のぶひこ 元東京大学教授。1943年、神奈川県生まれ。70年3月、東大大学院人文科学研究科修士課程修了。同年4月、東大史料編纂所に勤務し、「大日本史料」(11編・10編)の編纂に従事する。

方、アジアの民族問題などを中心に研究する。2006年3月、定年退職。現在、夕刊紙や月刊誌で記事やコラムを執筆する。著書に「唐日偽善に狂う朝日新聞」(日新報道)など。

BS-TBSに「吉田類の酒場放浪記」という番組がある。イラスレーター・俳人である吉田類氏が全国の酒場を訪ね歩き、実際に酒を飲み、看さかなを食べる設定で、かなり人気があるようだ。

その酒場放浪記を、朝日新聞が10月13日の「ニュースの扉」欄で、取り上げている。見出しは「吉田類さんと訪ねる軍国酒場」。酒場は酒場でも、軍国酒場であることがミソである。筆者は歴史専門の

記者なので、真面目な記事であるらしい。訪れたのは鹿児島県天文館の裏通りの店で、ずっと軍歌を流し続け、武器も展示されているという。女主人は「私がある。伝えたいのは、もう二度とあんな戦争をしてはいけない」といこと。平和が「一番」といい、吉田氏は「よ



朝日新聞東京本社

## 軍用機生産に関わった 自社施設こそ戦争遺跡

く言っただけど、この世は酒飲みばかりなら戦争はなくなる。酔っぱらったら鉄砲撃つてもあたらない」という。これがこの記事の核心部分である。

つまり軍国酒場も戦争遺跡であると、言いたいらしいが、両者は明らかに別物であるのに、無理に同一視している。

同書の第16章、「護国第4476工場」によると、それは朝日の中部総局(現名古屋本社)の地下にあった施設で、そこでは「軍用機の機体や部品の設計図を、実寸大に拡大複写していた」という。製品は近隣の三菱重

ところで、この記事の中には、さらに「戦争の痕跡」という囲み記事がある。その文章には、戦争の「痕跡」は次々と消滅しつつあり、軍国酒場も日本中にあつたが、今では数えるほどだと述べている。また、地図には「主な戦争遺跡」として、松代大本営予定地下壕や知覧戦争関連遺跡など5カ所が標示されている。

忘れたために軍国酒場の存続を主張するのに対し、筆者の記者、すなわち朝日が、戦争遺跡として保存しておきたいのか、軍国主義の遺物だから撲滅したいのか、はっきり言わない。本気で保存を求めているのなら、朝日自身が経営したらしいだろう。

当時の施設は現在失われているだろうが、平面図などは判明しているから、自らの戦争遺跡として「護国第4476工場」をぜひとも復元すべきである。朝日は報道だけでなく、軍用機生産にまで関わっていたという、戦争の実態をビジュアルに伝えるため

おわり